

あなたと博物館

松本市立博物館ニュース No.179 2012.3.1



ほくたち冬芽、はやく春にならないかなあ
誰が何の芽か、わかるかな？

答えは最後のページだよ

アルプス公園の桜

春の訪れとともに、里山は色とりどりの花や、木々の緑に染められていきます。その少し前の時間に、時計を戻してみましようか。雪がしんと降り積もる寒い冬の中で、春への準備が進められていたのです。固い木の芽、よく見ると、ほーら、顔みたいに、見えるでしょう？これを、「冬芽」といいます。楽しそうに歌っているようにも、見えませんか？

もくじ

誌上博物館 ◇ 伝統を体験する企画展「博物館でひな祭り」	2
窪田空穂記念館特別コーナー展示「関東大震災と空穂」	3
ガイドコーナーはんでんぼく	4

伝統を体験する企画展「博物館でひな祭り」

1 はじめに

この冬は気温が低い日が続いたためか、ことさら春の訪れが待ち遠しく感じられます。今春も博物館では、恒例の松本の「月遅れの雛祭り」に関連した展示を3月2日（金）から4月8（日）にかけて開催します。

本展では、雛祭り行事の「伝統」と「体験」をキーワードに展示を試みます。まず「伝統」の部分では、例年のように松本の押絵雛をはじめ、雛祭りの派生と雛人形の変遷を紹介します。その一方で、展示室の一角にいただけで、雛祭りの雰囲気を感じる場を創出します。お雛様についての説明を読んでいただくよりも、眼で見て、美しさを感じ、その存在理由に思いをはせる「体験」を子供たちにもしてほしいと考えたからです。

2 雛祭りの「伝統」は誰のもの？

桃の節句とよばれる「雛祭り」は、現代においても日本の伝統行事として継承されていますが、いつ頃から雛祭りは行われてきたのでしょうか。

今のような雛祭りのかたちは、江戸時代には始まっていたと考えられています。当時、上巳の祝いというのがあり、武家の家庭では節句の雛人形を飾り、学問や諸芸の師匠に品物・食物などを贈るならわしだったそうです。上巳とは3月の最初の己の日のことです。この日はもともと人形で体をなでて穢れを移して川や海に流した「流し雛」の行事があり、その人形が江戸時代には子供の遊び道具となり、段に飾られるようになったといわれています。

雛人形や雛道具が豪華なものになっていった背景には、大名家・大奥の女性が雛人形師に競って注文した当時のブームもあったようです。そして、上層社会の文化を受けて雛人形が庶民のものとなったのは、享保雛というタイプのお雛様が江戸中期に生まれ、「町雛（町屋で作られた雛）」と呼ばれた頃だといわれています。

この伝統の成り立ちを概観すると、お雛様は女の子だけのモノとして作られてきたのではなく、その対象は広く、子供から成人した女性までが参加するお祝いごとのための人形だったのです。

3 見られるためのお雛様を「体験」する

雛人形関連の書物^(注1)を眺めていると、お雛様を見ていると気持ちがやすらぐとか、いつまでも見たい気になる、などと書かれています。これは、雛人形を長年大切にしてきた人々の心にも通じる表

現だと思えます。人形を大切にしようとした人々の手を経て、当館に寄贈された雛人形の数は約650点、押絵雛にいたっては約900点もあります。しかし、その大部分が1年に一度の登場の機会を失い、普段は当館の収蔵庫に眠っています。

そこで本展では、約200点の多様な資料を一堂に展示し、まるで「お雛様の大集合」を畳に座ってゆったりと来館者に観覧していただくようにしました。展示する資料は、郷土雛から節句人形まで様々です。なかには、組み立て式で各パーツが全て平らな箱に納まるように細工されている『御殿雛』(写真①)や雛段の高さが30cmほどしかない5段飾りの『豆雛』(写真②)などもあります。

昔の日本人がこれらの美しいお雛様の創出に工夫



写真①「御殿雛」
享保雛の形につき古式として男性を左にした



写真②「豆雛」
現代式として男性を右にした

を凝らした理由とは何かを考えると、お雛様のようにになりたい、あるいは子供がお雛様のようになりますように、という願いがあったのだと思います。おそらくお雛様とは、多くの人に見つめられるように作り続けられてきた存在なのでしょう。

4 むすびにかえて

企画展「博物館でひな祭り」では、そのようなお雛様の存在理由を想像したり、気に入ったお雛様を探したりと、その節句に込められた願いを体感していただけるよう「伝統」と「体験」が融合した博物館での空間づくりを試みます。本展を通じて春の息吹を感じ、信州の長い冬から春を待つ心を共有していただけたらと思います。

(市立博物館／秋山かおり)

(注1) 例えば藤田順子『雛と雛の物語り』2000年 暮らしの手帖社 など。

窪田空穂記念館特別コーナー展示「関東大震災と空穂」

1 はじめに

平成23年は、3月11日に発生した東日本大震災をはじめ、翌12日の長野県北部地震、また6月30日の長野県中部を震源とする地震など、多くの災害がおこりました。この震災がきっかけになり、関東大震災時の様子などを詠んだ空穂の歌が、新聞や雑誌などで取り上げられ、注目されるようになりました。

2 関東大震災とは？

関東大震災は大正12年（1923）9月1日午前11時58分に発生した大地震で、神奈川県を中心に関東地方と静岡県東部までの内陸と沿岸部の広い範囲に甚大な被害をもたらしました。死者・行方不明者数は約10万5千人にのぼりました。また、その被害は長野県にまで及びました。発生時刻がちょうど昼食の時間帯であったため、多くの火災が発生し、加えて能登半島付近に位置していた台風による強風に煽られ、火災旋風を引き起こし、被害が広がっていきました。地震発生以後も気象観測を続けていた東京の中央气象台では、翌2日未明に最高気温46.4度が観測されました（気象記録としては無効であり、記録は抹消されている）。異常なほどの気温から、その火災の激しさがうかがえます。

3 関東大震災と空穂

当時46歳だった空穂は、東京・文京区（ぶやしがや）の雑司ヶ谷に住んでいました。空穂の家や雑司ヶ谷には大きな被害はなく、火災も起こりませんでした。下町が大火だと知った空穂は、神田神保町で書店を営む甥を気づかい、靖国神社下の大通りを目標に徒歩で向かいました。実際に自分の足で焼け野原になった東京の街を歩き、直接眼にしたり、耳にしたりした生々しい惨状を正確に詠んでいます。これは、空穂の好奇の物見ではなく、「歌人としての使命感があり、このような時こそ作品を残すべきだ」との思いが秘められていたと長男・章一郎は『窪田空穂の短歌』（短歌新聞社 平成8年）で述べています。のちにこの甥が無事だということがわかり、空穂の家に避難することになりました。

負へる子に水飲ませむとする女
手のわななくにみなこぼしたり

新聞紙腰にまとへるまはだかの
女あゆめり眼に人を見ぬ

これらの作品から、空穂の視線が徹底的に人々に注がれていることがわかります。上記の作品を含む空穂の震災詠は、第10歌集『鏡葉』（かがみは）（短歌新聞社大正15年）に収められています（下写真）。



4 おわりに

空穂は、写真や映像では伝えきれない震災のリアルな状況や命の大切さ、尊さを短歌と言う形に残しています。東日本大震災、長野県北部地震発生から1年経とうとする今、空穂の震災詠によって、改めて自然の力の大きさや今後の防災対策を見直すきっかけにしてもらえたらと思います。

（窪田空穂記念館／山腰絵梨菜）



関東大震災の日の空穂の日記

特別コーナー展示「関東大震災と空穂」

3月10日④～5月13日④

松本市立博物館から

☎0263-32-0133

企画展「博物館でひな祭り」

会期 3月2日(金)～4月8日(日)
会場 松本市立博物館2階特別展示室
観覧料 単独券料金(大人200円、小中学生100円)

年中行事シリーズ1「甘酒サービス」

日時 4月3日(火) 午前9時30分～配布開始
無くなり次第終了
会場 松本市立博物館ロビー

第19回学都松本・博物館勸館楽学対談

日時 3月3日(土) 午前10時30分～正午
会場 松本市立博物館講堂
テーマ 「コトヨウカ調査を語ろう2」
対談者 平成23年度市民学芸員養成講座受講者
遠藤正教(松本市立博物館学芸員)
参加費 無料

第8回学都松本・博物館「学芸員松本モノ語り」

日時 3月10日(土) 午前10時30分～正午
会場 松本市立博物館講堂
テーマ 「実用?道楽?数を楽しむ～江戸庶民の愛した算術～」
語り手 一ノ瀬幸治(時計博物館学芸員)
参加費 無料

窪田空穂記念館から

☎0263-48-3440

松本の子どもの短歌・2011作品展

会期 3月17日(土)～4月15日(日)
会場 窪田空穂記念館会議室
観覧料 作品展のみは無料

春休み窪田空穂記念館囲碁教室

会期 3月23日(金)～3月25日(日) 午前10時～正午
会場 窪田空穂記念館(生家)
対象 小中学生
参加費 無料(定員あり)
指導 囲碁普及ボランティアグループ
申込み 電話かFAXで空穂記念館まで FAX.0263-48-4287

旧制高等学校記念館から

☎0263-35-6226

企画展「松高生の青春日記2～寮生活に忍び寄る戦争の影～」

会期 3月3日(土)～5月6日(日)
観覧料 無料(ただし常設展は高校生以上300円)

第104回サロンあがたの森

日時 3月10日(土) 午後1時30分～4時
会場 あがたの森文化会館 1-5教室
話題 「松本藩の長州征伐-芸州出陣の実態を巡って」
話題提供 青木教司(松本城管理事務所研究専門員)
参加費 無料(事前申込不要)

あとがき

例年になく寒さがきびしい冬でしたが、里山にもようやく春のきざしが見えてきました。固いつぼみに花が咲く日も遠くはなさそうです。
では表紙の答え、①サンショウ、②オニグルミ、③フジ、④ガマズミ、⑤クズ、⑥ヤママグワです。いくつわかりましたか? (H.S)

歴史の里から

☎0263-47-4515

松本市歴史の里では下記の染め織り関係を中心とした体験講座を開催します。ふるってご参加ください。

高機で草木織り体験

日時 3月22日(木) 午前10時～正午、午後1時～3時
定員 午前、午後とも各5名
体験料 1000円(布一枚分、18cm×22cm位の布です)

子ども裂き織り体験

日時 3月24日(土) 午前9時30分～正午
定員 親子5組(小・中学生とその保護者)
体験料 1000円(布一枚分、18cm×22cm位の布です)
持ち物 裂き織りにしてみたい布(お持ちでしたら)

第5回建築ワークショップ「仕口、継ぎ手(しぐち、つぎて)」

日時 3月24日(土) 午前9時～正午
定員 20人
体験料 500円
持ち物 作業用の手袋、ノコギリ、ノミ(1.5cm～2.5cm)、木槌、曲尺(所有している方)
服装等 汚れても良い身支度

高機で裂き織り体験

日時 4月15日(日) 午前10時～正午、午後1時～3時
定員 午前、午後とも各6名
体験料 1000円(布一枚分、18cm×22cm位の布です)
持ち物 裂き織りにしてみたい布(お持ちでしたら)

糸染め体験

日時 4月25日(水) 午後1時～4時
定員 8名
体験料 2000円
持ち物 エプロン、ゴム手袋、ビニール袋(持帰り用)

開催の3日前までに歴史の里へ。
定員に達し次第締め切ります。

重要文化財馬場家住宅から

☎0263-85-5070

企画展「押絵雑展」

月遅れの雛祭りにあわせ、松本伝統の押絵雑を展示します。
会期 3月3日(土)～4月15日(日)
会場 重要文化財馬場家住宅主屋
観覧料 通常観覧料(大人300円、中学生以下無料)

山と自然博物館から

☎0263-38-0012

ボタニカルアート作品展示

3月3日開催のボタニカルアート講座に合わせて、講師の山田恭子氏の作品を展示します。
会期 3月3日(土)～3月31日(土)
会場 山と自然博物館2階ホール
観覧料 作品展示のみは観覧無料

あなたと博物館 No.179

発行年月日/平成24年3月1日 編集・発行/松本市立博物館
〒390-0873 松本市丸の内4番1号 Tel.0263-32-0133 URL:http://www.matsu-haku.com
e-mail: mcmuse@city.matsumoto.nagano.jp 印刷 川越印刷株式会社